

校長室より

二松学舎大学附属高等学校  
校長 鶴飼教之

## 「二松から飛翔へ」～一期一会～

## 部活動応援記

～春季大会で躍動する力と感謝の気持ち～

新年度がスタートし、校内には新入生の初々しい姿とともに、各部活動の活気ある声が響いています。4月に入り、高体連等主催の春季大会やインターハイ予選が各地で行われ、本校の生徒たちもそれぞれの舞台上で力を尽くしています。今回は、その中から私が応援に足を運んだ部活動の様子を紹介いたします。

## 〈野球部 4/4・4/12〉

春季大会が春休み中に開幕し、江戸川球場にて郁文館高校と対戦しました。初戦は雨の中断でやきもきしましたが、12対0（6回コールド）と投打がかみ合い、幸先の良いスタートを切りました。続く2戦目、駒沢球場での世田谷学園戦では、打線が好機をつくりながらもあと一本が出ず、投手陣も粘投する中で満塁本塁打を浴びるなど、惜しくも3対5で敗れました。この結果、夏の大会はノーシードからの挑戦となりますが、ここからの巻き返しに大いに期待しています。応援体制も万全に整え、チーム一丸となって頂点を目指してほしいと思います。



## 〈陸上競技部 4/18〉



大井陸上競技場での大会に、初めて応援に行きました。青空のもと、やや風のあるコンディションでしたが、選手たちはそれぞれ自己ベスト更新を目標に真剣な表情でトラックに立っていました。特に男女4×100mリレーでは、スタンド前を駆け抜けるアンカーに大きな声援を送り、チームが一体となる瞬間を感じました。競技後、キャプテンが「個人の記録だけでなく、チームとしても結果を出したい」と語ってくれた言葉が印象に残っています。

## 〈女子バスケットボール部 4/19〉

前週に初戦突破を果たし、2回戦では玉川学園と対戦しました。相手には長身の選手もいましたが、本校は第1クォーターから巧みなパスワークでディフェンスを崩し、ドライブや3ポイントシュートを織り交ぜながら主導権を握りました。後半は運動量で上回り、攻守ともに積極的なプレーで勝利をつかみ取りました。チームのまとまりと勢いを感じさせる内容で、次戦3回戦が非常に楽しみです。



## 〈男子バレーボール部 4/19〉



都立広尾高校との一戦。第1セットは相手の強いサーブに苦しみながらも、粘り強くボールをつなぎ、25対22で先取しました。第2セットは接戦の中であと一歩及ばず21対25、最終セットも終盤にリードを許し21対25で惜敗となりました。悔しさの残る試合でしたが、1年生もコートに立つなど、今後の成長が大いに期待できる内容でした。

## 〈男子バスケットボール部 4/19〉

会場に到着した時にはすでに第2クォーターが始まっており、錦城高校にリードを許している状況でした。しかし、選手たちは最後まで集中力を切らさず、スピードある展開で相手に食らいついていました。鋭いパスワークからゴール下で得点する場面もありましたが、最終的には62対90で敗戦となりました。それでも最後まで諦めない姿勢は、次につながるものと確信しています。



各部とも勝敗の結果はさまざまでしたが、そこには日々の努力の積み重ねと、仲間とともに戦う姿がありました。勝利はもちろん価値あるものですが、敗戦から学び、次にどう生かすかがより重要です。今回敗れたチームにとって、次の大会は3年生にとって最後の舞台となる場合も少なくありません。悔いの残らぬよう、残された時間を大切に過ごしてほしいと願っています。

また、会場では多くの保護者の皆様が足を運び、温かい声援を送ってくださっていました。お忙しい中、生徒たちのために時間を割き、励まし続けてくださっていることに、心より感謝を申し上げます。

さて、大会応援に出かけた翌日の朝、校門に立っていると「昨日は応援ありがとうございました」と声をかけてくれた生徒がいました。ほんの一言ではありますが、たいへん清々しい気持ちになりました。